

JR連合
 総がかりの運動を
 強く広く
 展開しよう!



JR連合

JAPAN RAILWAY TRADE UNIONS CONFEDERATION

日本鉄道労働組合連合会
 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10 東興ビル9階
 TEL (NTT) 03-3270-4590 (JR) 057-7848
 FAX (NTT) 03-3270-4429 (JR) 057-7849
 1部20円 (但し組合費に含む)
 ●発行者 松岡裕次 ●編集者 中村鉄平

facebook
 JR連合

twitter
 JR連合

連合第22回「政策・制度中央討論集会」 「働くことを軸とする安心社会」 にむけた政策を実現していく

連合は、5月10日、第22回「政策・制度中央討論集会」を開催し、「2020〜2021年度政策・制度要求と提言(原案)」及び「社会保障・教育・税制に関する政策構想(原案)」について討議した。構成組織、地方連合会及び関係団体などから393人が参加し、JR連合からは河村滋喜事務局長をはじめ5人と、JR東海ユニオン中央本部から福森敬和副書記長、小倉敏二教育部長が出席した。冒頭、挨拶に立った神津里季生会長は、「令和」という新たな元号の時代が幕を開け、さまざまな課題に全力を挙げて立ち向かいつつ、新しい時代にふさわしい運動を確立していくことが重要であると述べるとともに、目前に迫る参議院選挙に向け、すべての働く仲間

間・生活者のための政策を実現させていくことを強く呼びかけた。続いて、野田三七生政策委員長から、「要求と提言」「政策構想」について、策定経過・概要や今後のスケジュールなどの説明があり、組織内討議で出された意見を踏まえた活発な討論



真摯な討論を要請し、連合の政策実現にむけて着実に前進させていく決意を述べる神津会長

を要請するとともに、政策実現に向けた各員一丸となった取り組みを訴えた。その後、4つの分科会に分かれ討議を行った。交通・運輸政策については、第4分科会において扱われ、JR連合から中山耕介組織・政治部長、中村鉄平交通政策部長が参画した。JR連

合からは、自然災害による鉄道被災からの復旧支援に關連して「被災したものを復旧することを支援強化することは言うまでもないが、そもそも耐震補強や老朽化した設備の大規模修繕などで防災対策することが重要。特に、鉄道のトンネル・橋りょうは明治時代のもので未だに使われていたりする。鉄道は社会インフラといわれながらも、民間企業として原則的には自らの経営資源のみで対応しているが、公的資金をさらに投じるべきではないか。地域公共交通という観点からは、社会福祉政策の一環ともいえることから、国土交通関係以外の予算で対応するといったことも考えるべき」と、公的支援強化と予算配分のあり方に対して意見した。また、非常災害時の情報提供

「医療・介護連携の層推進」連合は、5月11日、都内「日本教育会館」で、「医療・介護フェス2019」を開催し、全国から約530人の仲間が参集し、JR連合からは医療連絡会を中心とする14人が出席した。連合では従来、1997年以降毎年中央集会を開催してきたが、今回はより多くの一般組合員の参加をめざし、内容を刷新した。前半では、四国医療産業研究所の榎本真事所長から「『地域包括ケア時代』の医療と介護」と題する講演があり、現在の医療・介護が「依存」を生み出してお



身近な業務課題を連想しながら、真剣に耳を傾ける医療連絡会幹事ら

「地域包括ケア」および「どうする!?」地域包括ケア」の設置を求め声が大きいことやハラスメントの実情などが語られた。最後には、同会の新役員体制を決定・確認した。

「医療・介護フェス2019」連合は、5月11日、都内「日本教育会館」で、「医療・介護フェス2019」を開催し、全国から約530人の仲間が参集し、JR連合からは医療連絡会を中心とする14人が出席した。連合では従来、1997年以降毎年中央集会を開催してきたが、今回はより多くの一般組合員の参加をめざし、内容を刷新した。前半では、四国医療産業研究所の榎本真事所長から「『地域包括ケア時代』の医療と介護」と題する講演があり、現在の医療・介護が「依存」を生み出してお

「医療・介護連携の層推進」連合は、5月11日、都内「日本教育会館」で、「医療・介護フェス2019」を開催し、全国から約530人の仲間が参集し、JR連合からは医療連絡会を中心とする14人が出席した。連合では従来、1997年以降毎年中央集会を開催してきたが、今回はより多くの一般組合員の参加をめざし、内容を刷新した。前半では、四国医療産業研究所の榎本真事所長から「『地域包括ケア時代』の医療と介護」と題する講演があり、現在の医療・介護が「依存」を生み出してお

「医療・介護連携の層推進」連合は、5月11日、都内「日本教育会館」で、「医療・介護フェス2019」を開催し、全国から約530人の仲間が参集し、JR連合からは医療連絡会を中心とする14人が出席した。連合では従来、1997年以降毎年中央集会を開催してきたが、今回はより多くの一般組合員の参加をめざし、内容を刷新した。前半では、四国医療産業研究所の榎本真事所長から「『地域包括ケア時代』の医療と介護」と題する講演があり、現在の医療・介護が「依存」を生み出してお

「医療・介護連携の層推進」連合は、5月11日、都内「日本教育会館」で、「医療・介護フェス2019」を開催し、全国から約530人の仲間が参集し、JR連合からは医療連絡会を中心とする14人が出席した。連合では従来、1997年以降毎年中央集会を開催してきたが、今回はより多くの一般組合員の参加をめざし、内容を刷新した。前半では、四国医療産業研究所の榎本真事所長から「『地域包括ケア時代』の医療と介護」と題する講演があり、現在の医療・介護が「依存」を生み出してお



冒頭、新倉実議長は挨拶に立ち、「北海道から九州まで、グループ労働会を含めた多くの仲間が、組織や会社を越えた交流を図ることは、普段とは違った広がりがある」とユースラリーの意義を語った。また、平成30年7月豪雨等の救援カンパに対して感謝を述べ、労働組合の原点である支え合い、助け合いの精神を共有できたとした。最後に、「一人ひとりが楽しんでやろうと思う気持ちが大事」とユースラリーへの積極的

な参加を要請した。続いて、実行委員会を代表してJR連合関東地協の滝康弘青年女性委員長が「これまで実行委員会全員がみなさん楽しんでもらうことだけを

考えて企画してきた」と語り、「この2日間をしっかりと楽しんで欲しい」と呼びかけた。来賓として、青年・女性委員会担当の中村鉄平交通政策部長は「JR連合には8万3000人の仲間がいる。東日本をはじめ労働組合に未加入の方を含め、全国のJR職場で働く仲間の輪をしっかりと広

げて欲しい」と挨拶した。交流レクリエーションでは、実行委員会が司会進行として、さまざまなゲームを展開した。各グループからは歓声が上がり始め、一体感が生まれた。その後の学習会では、「青年・女性委員会の意義」をテーマとして、労働組合の役割や使命とともに、「仲間づくり」を目的とした活動の重要性を学んだ。初日の最後には、レセプションを開催し、来賓にJR連合の河村滋喜事務局長、関東地協議長の杉本修哉JR東海ユニオン新幹線地本執行委員長を招き、それぞれ連帯の挨拶で華を添えた。翌日のウォークラリーを控えた各参加者はレセプション終了後には作戦会議を開きながら、深夜まで懇親を深めた。2日目は早朝からウォー

クラリーを実施し、日本橋・国会議事堂など観光地や東京駅といったJRに隣接するチェックポイントを巡った。炎天下の中でも東部を深めながら、絆を深めた。最後は三ツ星報告が行われ、逢見直人会長代行が本集会を総括した。最後には、福祉・社会保障政策小委員会の山中しのぶ委員長による「団結ガンバ

ロウ」で締めくくった。ア」を支える人材確保」なる2つのテーマでパネルディスカッションが行われたほか、フェスの途中には、介護福祉士のシンガソングライター・清水わかかな氏の活気溢れるライブや「いきいき100歳体操」といった催しも行われた。

の皆さまが押し寄せた。利用者の多くは運行状況などを予め把握しておらず、鉄道駅などの混乱を増長する結果を招いている」と現場での苦勞を代弁した。討論後は、各分科会から報告が行われ、逢見直人会長代行が本集会を総括した。最後には、福祉・社会保障政策小委員会の山中しのぶ委員長による「団結ガンバ

第24回ユースラリー「いくぜ、関東!」 全国から結集したJRで働く仲間と組織を越えた交流

JR連合青年・女性委員会は、5月25日〜26日、東京都内で、JR連合関東地協青年・女性委員会を中心各地協代表者らで構成した実行委員会による「第24回ユースラリー「いくぜ、関東!」」を開催した。今年も北海道から九州まで全国から110人を超える仲間が集まり、組織を越えた交流を図った。今回は参加しやすいを重視し、例年の2泊3日の形式ではなく、1泊2日として企画し、合計18単組からの参加を実現した。参加者は12グループに分かれ、初日は交流レクリエーションの後、学習会を実施。2日目は、都内を巡るウォークラリーを行った。

な参加を要請した。続いて、実行委員会を代表してJR連合関東地協の滝康弘青年女性委員長が「これまで実行委員会全員がみなさん楽しんでもらうことだけを

考えて企画してきた」と語り、「この2日間をしっかりと楽しんで欲しい」と呼びかけた。来賓として、青年・女性委員会担当の中村鉄平交通政策部長は「JR連合には8万3000人の仲間がいる。東日本をはじめ労働組合に未加入の方を含め、全国のJR職場で働く仲間の輪をしっかりと広

げて欲しい」と挨拶した。交流レクリエーションでは、実行委員会が司会進行として、さまざまなゲームを展開した。各グループからは歓声が上がり始め、一体感が生まれた。その後の学習会では、「青年・女性委員会の意義」をテーマとして、労働組合の役割や使命とともに、「仲間づくり」を目的とした活動の重要性を学んだ。初日の最後には、レセプションを開催し、来賓にJR連合の河村滋喜事務局長、関東地協議長の杉本修哉JR東海ユニオン新幹線地本執行委員長を招き、それぞれ連帯の挨拶で華を添えた。翌日のウォークラリーを控えた各参加者はレセプション終了後には作戦会議を開きながら、深夜まで懇親を深めた。2日目は早朝からウォー

クラリーを実施し、日本橋・国会議事堂など観光地や東京駅といったJRに隣接するチェックポイントを巡った。炎天下の中でも東部を深めながら、絆を深めた。最後は三ツ星報告が行われ、逢見直人会長代行が本集会を総括した。最後には、福祉・社会保障政策小委員会の山中しのぶ委員長による「団結ガンバ

の皆さまが押し寄せた。利用者の多くは運行状況などを予め把握しておらず、鉄道駅などの混乱を増長する結果を招いている」と現場での苦勞を代弁した。討論後は、各分科会から報告が行われ、逢見直人会長代行が本集会を総括した。最後には、福祉・社会保障政策小委員会の山中しのぶ委員長による「団結ガンバ

の皆さまが押し寄せた。利用者の多くは運行状況などを予め把握しておらず、鉄道駅などの混乱を増長する結果を招いている」と現場での苦勞を代弁した。討論後は、各分科会から報告が行われ、逢見直人会長代行が本集会を総括した。最後には、福祉・社会保障政策小委員会の山中しのぶ委員長による「団結ガンバ

の皆さまが押し寄せた。利用者の多くは運行状況などを予め把握しておらず、鉄道駅などの混乱を増長する結果を招いている」と現場での苦勞を代弁した。討論後は、各分科会から報告が行われ、逢見直人会長代行が本集会を総括した。最後には、福祉・社会保障政策小委員会の山中しのぶ委員長による「団結ガンバ

ウォークラリーを終え、初日からのゲーム等の得点結果を待つ参加者

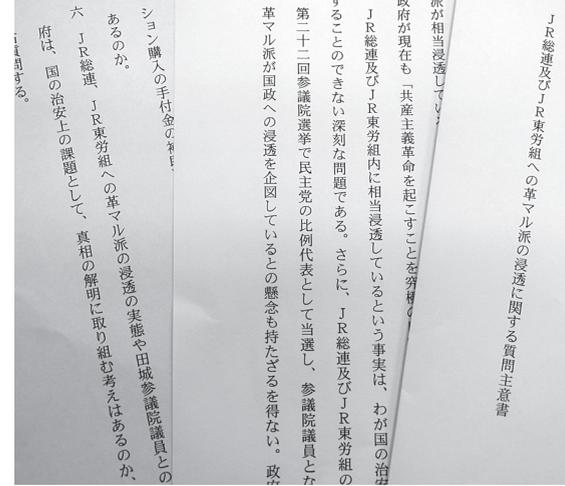
特集

民主化闘争 55

革マル議員の繰上当選は 国の治安問題

まもなく第25回参議院議員選挙を迎える。菅官房長官が5月17日の記者会見で内閣不信任決議案の衆議院提出が衆議院解散の大義になると明言したことで、国会内で微風だった解散風は一気に強くなり、新聞やテレビでも衆議院議員選挙との同日選挙の実施に対する報道が熱気を帯びた。

一方、3年前の第24回参議院議員選挙において、比例区の次点で落選した田城郁氏は、現在、JR総連の副委員長である。今回の参院選への再挑戦も囁かれた。JR総連の最大単組であったJR東海組の組織瓦解によって、その野望は潰えたようだ。



2010年10月1日に佐藤議員から提出された質問主意書

役員紹介



JR四国労組 香川支部 書記長 杉本慶太さん

JR四国労組香川支部書記長の杉本です。私は1993年に入社し、JR四国硬式野球部に11年間所属したのち、現在は香川県の多度津駅で操車や信号取扱の業務を担当しています。組合では、2年前から支部書記長を務めるとともに、香川県交運労協の事務局長にも就任しました。

2019春季生活闘争【グループ労組】 (5月23日報告まで) 昨年度成果【ベア51単組】の目前に迫る

74単組妥結 49単組でベア獲得

- JR九州システムユニシヨンス労組 【3月29日妥結】
・定期昇給 実施
・ベア 300円
・夏季手当 2・6ヵ月
・年度末一時金
・短時間勤務制度の改善

- JR西日本ヴィアイン労組 【4月26日妥結】
・定期昇給 実施
・ベア 200円
・夏季手当 1・8ヵ月
・年度末一時金
・永年勤続表彰制度の改善

Advertisement for '交通共済' (Traffic Mutual Insurance) with the slogan '自然は強い。共済も強い。' (Nature is strong. Mutual insurance is also strong.) and '家族の幸せを災害から守る' (Protect family happiness from disasters).

